

大豆情報第3号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

本年の7月中旬～8月上旬の気象は、平年に比べ平均気温は 1.8℃高く、降水量は 82%とやや少なく、日照時間は 109%とやや多い状況でした。播種は、梅雨時期の降雨で遅れ7月15日頃から本格的に始まり、7月28日頃に終了しました。その後は、適度な降雨もあり全体的に生育は順調です。

今後は以下のことに留意して栽培管理を行ってください。

1 排水対策および施肥

8月10日発表の1か月予報は下表のとおりです。

晴天が続く予報の場合は、本暗渠の栓を閉めて、乾燥防止に努めましょう。降雨が続いた場合は、湿害防止のため、本暗渠の栓を開けて地下排水を図る必要があります。また、中耕・培土でできた溝と、排水口を確実につないで、早めに地表水の排水を行ってください。

また、開花期前で生育量が少ない場合や湿害が発生しているほ場では、硫安を10kg/10a(窒素2kg/10a程度)追肥することにより生育を回復させることができます。

福岡管区气象台1か月予報

(1 週目) 8/12～18	(2 週目) 8/19～25	(3～4 週目) 8/26～9/8
太平洋高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷や湿った空気の影響により雲が広がりやすい日もあるでしょう。	太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

2 雑草防除

本年は、ほ場によってはイネ科雑草やアサガオ類などの発生が多いところもあります。現在、雑草の発生が多くみられる場合は、中期除草剤による防除が必要です。

【イネ科雑草】

ポルトフロアブル (200～300ml/10a を水 100ℓ、収穫30日前まで)

【アサガオ類】

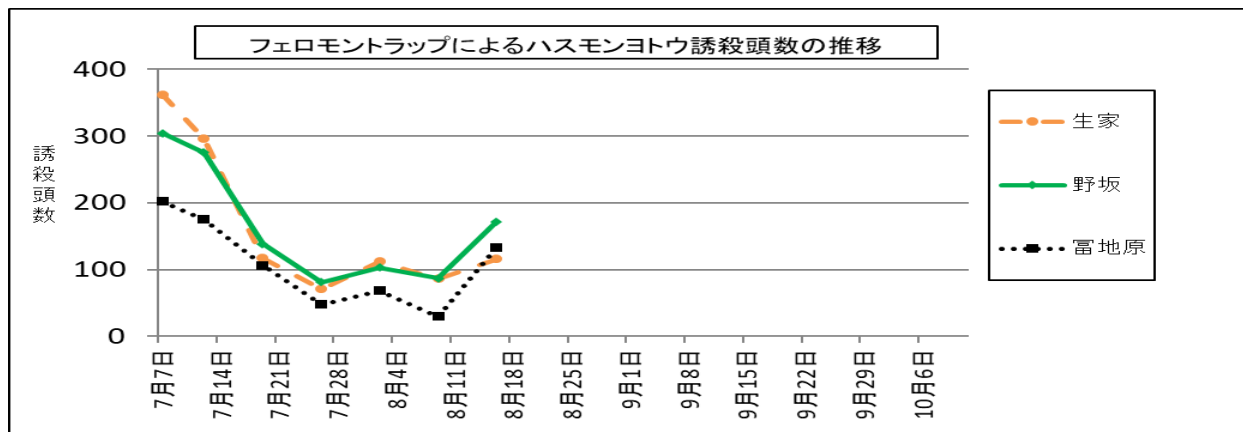
大豆バサグラン液剤 (100～150ml/10a を水 100ℓ、開花前まで)

【ホソアオゲイトウ、ホオズキ等の広葉雑草】

アタックショット乳剤 (30～50ml/10a を水 100ℓ、開花前まで)

3 ハスモンヨトウ

管内3か所で設置しているフェロモントラップの誘殺数は、現在少ない状況です。今後の発生は地域やほ場で異なるため、白変葉や虫の発生状況を確認しながら防除を実施してください。



☆ハスモンヨトウ防除（白変葉が5株/aを超えるほ場）

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	使用量 (10a 当たり)
液剤	プレバソフフロアブル5 (4,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100ℓ ~150ℓ
粉剤	トレボン粉剤 DL	ハスモンヨトウ、 カメムシ類	収穫14日前まで	4kg

※液剤の場合、カメムシ類が多いほ場は、トレボン乳剤（1000倍）を混用してください。

※昨年、多発したウワバ類が発生した場合は、ハスモンヨトウの防除とあわせてプレバソフフロアブルまたはトレボン剤で防除してください。

【白変葉】



【ハスモンヨトウ幼虫】



【ミツモンキンウワバ幼虫】



★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳